

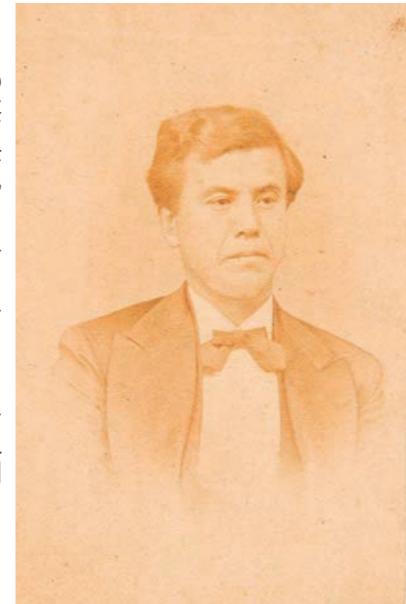


⑤毛利元徳・木戸孝允ほか 明治3(1870)年4月26日、上野彦馬撮影

写真④慶応2(1866)年12月29日、長州藩主毛利敬親(たかちか)と世子元徳(もとのり)は、英國海軍キング提督と三田尻(防府市)で会見しました。キング提督から会見の打診を受けた木戸孝允が、英國との結び付きを図る好機として、会見の成功に奔走し

写真⑤明治3(1870)年4月26日、山口藩

知事毛利元徳(前列右より2人目)が、鹿児島訪問の途中で立ち寄った長崎で随員と共に撮影したものです。木戸は後列中央に立っています。木戸の正確な身長は分かりませんが、当時としては比較的高かつたと思われます。ちなみに、随員たちが着用しているのは西洋式軍服で、右袖に付けている1本の白帯は、戊辰戦時の長州藩(山口藩)の制式です。撮影における最初期の職業写真師で、坂本龍馬、高杉晋



②木戸孝允 明治5(1872)年閏2月8日



④木戸孝允(左)・吉川経幹 慶応2(1866)年12月30日、ウォルター・タルボット・カー撮影



③木戸孝允 明治5(1872)年、MAULL & C.撮影

19世紀半ば、ヨーロッパで発明された写真技術が日本に伝来し、人物や風景を画像としてありのままに記録することが可能になりました。これにより、それまで肖像画などをしか知り得なかつた日本史上の人物の、リアルな容姿を見ることができるようになりました。

本連載の歴史コーナーでは、県立山口博物館の所蔵する幕末の志士たちの写真をシリーズで紹介

で、さかんに「己巳四月写す西京」と記されています。明治2(1869)年4月22日、京都寺町にあつた含春舎とい

たのです。翌日、両名は旗艦プリンセス・ロイヤル号上に招かれ、艦上でキンギ提督と共に記念撮影が行われました。この写真は、その際に同行した木戸孝允と岩国藩主吉川経幹(つねまさ)を同艦上で撮影したものです。

写真①裏面に「己巳四月写す西京」と記されています。明治2(1869)年4月22日、京都寺町にあつた含春舎とい

「ほっとやまはく」
タイム②3



①木戸孝允 明治2(1869)年4月22日

②岩倉使節団として訪米中にワシントンで撮影したものです。裏面に「明治五年壬申春閏二月初八、写於華盛頓」と記されています。

う写真館で撮影されたもので、江戸時代と同じ服装をしています。以下の写真はすべて、木戸家からの寄贈品です。

写真③木戸が岩倉使節団としてロンドン滞在中に撮影したものです。ちなみに伊藤博文、井上馨ら幕末の長州フアイブルーも、同じMAULL & C.で集合写真を撮つています。

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館(祝日の場合は翌日)。
最新情報はホームページで



▼次回は10月12日です
山田稔(学芸課主任)

作ら幕末に活躍した若き志士や、明治政府の高官たちを数多く撮影しました。